

(巻頭言)

ワイルドとシェイクスピアとディケンズ
——第五代会長に就任して——

荒井良雄
(駒沢大学教授)

人生では、自分の思いどおりにいかない事が多いのは承知しているが、私の日本ワイルド協会第五代会長就任も、その一つである。

昭和50年(1975年)12月6日、明治大学大学院研究所南講堂に於ける日本ワイルド協会設立記念の公開座談会「ワイルドと現代」で、ご縁があって司会役を務めたのが、そもそも事の始まりであった。そのシンポジウムの5人の講師の一人であった西村孝次先生が初代会長、同じくその日の講師であった小倉多加志先生、井村君江先生、川崎淳之助先生も、順次会長に就任なさったのだから、最後に残った私は、いつか会長を引き受けなければならない時が来るかも知れないと思っていたが、その時期は私の予想より早く来てしまった。平成4年11月28日、神戸のホテルゴーフリッツで開かれた理事会で、私は会長に指名され、顧問の西村先生が「時は熟せり」(Ripeness is all.)とおっしゃって、私の第五代会長就任が満場一致で決まった。

私の希望を言えば、会長を引き受けるのは、もう少し後の方がよかった。ロンドンにシェイクスピアのグローブ座を再建する事業に協力する仕事を、やむを得ず引き受けざるをえない立場に追い込まれて約10年、グローブ座はまだ完成していない。それよりも何よりも、大学で英語を教えるようになってから今日まで、一貫して研究と実践を続けてきた「パブリック・リーディング」の出発点であり帰結でもあるディケンズの「パブリック・リーディング」をまとめる時期に来ているからだ。私が初めて出版した本は『ドラマ・スピーチの話し方』(日本ソノ出版、1965年)という「パブリック・リーディング」の教本で、その理論の実践活動は、私の今の年齢をおいてほかに考えられない。

ところが、まわりを見回して、会長は逃げられないと判断した。そこで自分に課し課された様々な仕事を整理して、ワイルド協会の仕事を、最優先で考えて行くつもりである。幸い、創立者で初代会長の西村先生が名誉顧問、名会長として信望の高かった川崎先生が名誉会長、創立以来の先輩である酒井敏先生と佐藤喬先生が新たに顧問に就任して下さったので、顧問の先輩諸氏や熱心な会員諸氏のご協力のもとに、協会運営の雑用をこなしながら、協会の発展と2年後に迎える創立20周年のお膳立ての為に働く所存である。会員諸氏のご協力と活発な研究活動を、心から期待し、お願いしたい。